

第 38 回土木計画学研究発表会(秋大会)：2008.11.1~3(和歌山大学)

セッション討議内容の記録

セッション名：地域環境の評価	
日付： 11 月 1 日 (土)曜日，セッション時間： 15:00 ~ 16:30	
オーガナイザー・司会者名(所属)：柴田 久 (福岡大学)	
討 議 内 容	セッション全体： 住環境向上に資する緑の価値評価，子供の遊びを中心とした地域環境変化，東京都区部における都市再開発の3テーマについて，それぞれ特長ある研究発表が行われた．身近な住環境や都市部を対象に空間・環境整備の今日的課題，さらに対応策となる「評価」の仕方，手法の樹立等について活発な議論がなされた．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：(52) 渡辺幾美 (香川大学) ・NDVI のポイントデータとエリアデータのメッシュの大きさは変更可能か？本評価手法を活用していくうえで対象空間の状況に，柔軟に対応できると有用性が高まる． →可能である． ・地価の上昇効果はいくらか．公共施設の放置や維持管理の難しさが問題視されている今日，植栽事業を行う根拠，妥当性を担保できるだけの上昇額になるか，その説得力は？ →貨幣価値の提示だけでなく，センス・オブ・プレイスや場所・人との繋がりを強めていくなど，総合的な評価を目指すものである． ・都心居住者が緑を過小評価しているとあるが，はたしてそうか？個人の価値基準によるのでは？ ・「グリーンインフラストラクチャー」という考え方が参考になる．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：(53) 神谷大介 (琉球大学) ・研究の方向性として，今後，遊び空間の質についてどう取り扱っていくのか(子供の遊び場の設計において段差や丘といった高低差は創造的な遊びを生み出す仕掛けとして重要) →昔から存在している空間ならびに今は無くなってしまった空間と遊びとの関係性について調べていく ・利用者が怪我したことをきっかけに，遊ぶことが禁止されるなど，利用規制の影響はあるか？子供たちの遊び行動をどの程度許容し，対策を行っていくか． →「危険な場所には近づいてはいけない」という教育も大事である →国交省の児童公園整備に関する方針として，子供が想定できない危険箇所にはしっかりとした対策，想定できる危険箇所には子供たちの学習性，創造性を考慮することが望ましいとある． ・計画する者の立場として，子供達の創造性，感性をかきたてるような手法，計画思想について教えてほしい． →「してはいけません」というような教育が，遊び場を狭めている． →田畑が遊ぶ場所になっていない．自然に触れる場が必要である．

(発表番号) 発表者名 (所属) : (54) 織田尚紀 (東京理科大)

・形態規制緩和手法の有効性が示されたが、総合設計や空中権移転などの手法が都市景観を悪くしたという議論がある。

→形態緩和手法を使うと容積率のボーナスがたくさん出る。手法を全部使わないなどの考え方が大切ではないか。

・評価得点の配分方法について、事業者・地権者・地域住民の3者が想定されているが、重みはイコールか？「事業期間」「地下増加率」「権利者転出率」「社会的関心」のウェイトは0.25ずつ？、地権者は、「地下増加率」「権利者転出率」で0.5(=0.25+0.25)となっていないか？

・社会的関心をヒット数で捉えているのは面白いが、六本木の特徴(ものすごい関心を集めていた場所)などは考慮されているか？

・「再開発」の内容は？区画整理、市街地再開発などの事業種別、形態緩和手法の有無など。

→81事例は、全て再開発である。区画整理だけで止まっているものは除いている。

・再開発の成功とは何か？

→主体的に関わっている人たちが全員プラスの利益を持つことが成功と捉える。

・累積寄与率は45%程度であるが、主成分分析の結果の精度は大丈夫か？

・本研究では合意形成の期間ややりとりなどもデータとして入れたかった。今回はとにかくデータになるものを使って解析することを試みた。

・良い再開発とは何か？

→本当は「景観評価」もデータとして入れたかった。

→主要な視点場からの見え等はデータ化できる可能性はある。さらに景観検討プロセスを評価できると面白いのではないか？合意されたゴールとその満足率など。